慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	集合的記憶とテレビ : ウェブ・ モニター調査(2009年2月)の報告(2)
Sub Title	
Author	小城, 英子(Koshiro, Eiko) 萩原, 滋(Hagiwara, Shigeru) 村山, 陽(Murayama, Yo) 大坪, 寛子(Otsubo, Hiroko) 渋谷, 明子(Shibuya, Akiko) 志岐, 裕子(Shiki, Yuko)
Publisher	慶應義塾大学メディア・ コミュニケーション研究所
Publication year	2010
Jtitle	メディア・ コミュニケーション : 慶応義塾大学メディア・ コミュニケーション研究所紀要 (Keio media communications research). No.60 (2010. 3) ,p.29- 47
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20100300-0029

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

集合的記憶とテレビ

――ウェブ・モニター調査（2009年2月）の報告(2)――

小城英子・萩原　滋・村山　陽
大坪寛子・渋谷明子・志岐裕子

▶問　題

槙・仲（2006）によれば，自伝的記憶には，以下の3点の特徴がある。第1に，新しい記憶，特に最近10年間の記憶ほどよく想起されること（新近性効果；O'Connor, Sieggreen, Bachna, Kaplan, Cermak, & Ransil, 2000），第2に0～5歳までの幼児期の記憶の想起量が少ないこと（幼児期健忘），第3に10～30代の出来事の記憶が多いこと（バンプ；Rubin, Wetzler, & Nebes, 1986）である。

自伝的記憶は，具体的な体験に関するエピソード記憶も含めて，過去の自己に関わる情報の記憶を指している（佐藤，2008）。一方，集団や社会全体に共有されている記憶のことを集合的記憶といい（Halbwachs, 1950　小関訳1989），一部の集合的記憶は，自伝的記憶とも関わりを持っている。

Pennebaker, Paez, & Rimé（1997）は，集合的記憶にも，新近性効果が認められること，自国や自分自身と関わりの強い出来事の方がより重要であると認識されること，その背景には，出来事の情動的インパクトや出来事に関する心情の社会的共有行動などが関与していることを指摘している。また，Brandt & Benedict（1993）は，アクセス可能性の高さ，すなわち，何度も情報が繰り返されることを挙げている。これを受けて，高山・余語（2005）の行った研究では，1989～2003年15年間の国内10大ニュースと海外10大ニュース，計300の出来事を選定し，18～19歳の大学生259名を対象に熟知度を尋ねている。調査は2004年に行われており，提示されたうちでもっとも古い出来事（1989年）は，調査対象者が3～4歳の時期に該当している。分析の結果，最近の出来事ほど熟知度が高くなること，ベルリンの壁崩壊（1989年），松本サリン事件（1994年），阪神・淡路大震災（1995年），地下鉄サリン事件（1995年）といった重大な出来事は，時間経過にかかわらず熟知度の高いことなどが明らかにされている。特に後者について，高山らはマス・メディアの報道の影響を指摘している。すなわち，国内外の重大な出来事は，人々の強い情動を喚起する上に，繰り返し報道されることによって，アクセス可能性が高まり，結果として社会的共有が促進されたと考えられる。

高山らの研究では，調査対象者が大学生に限られていたため，数年間の範囲でしか年代差・世代差を測定していないが，本研究では，高山らの知見を踏まえて，幅広い年代を対象に調査を行い，記憶の共有におけるマス・メディアの影響を詳細に分析することを目的とする。なお，本稿は，2009年2月に行われたウェブ調査から，テレビにまつわる記憶について分析した結果を報告する。ウェブ調査の概要，テレビ視聴の実態については，萩原ら（2010）の報告を参照されたい。

テレビ番組の記憶

1）見たことのある番組

「見たことのある番組」の世代別・性別の単純集計結果を**表 1** に示す。

上位には,「サザエさん」,「笑っていいとも」,「笑点」,「水戸黄門」,「徹子の部屋」など,長寿番組が多く，どの世代にも認知率が高い。これらの番組は，長期にわたって，どの世代にも視聴の機会があったためと考えられる。

一方, 他の世代に比べて 10 代･20 代の若年層に特に認知率の高い番組は,「ガリレオ」,「踊る大捜査線」,「古畑任三郎」といった最近 10 年間に放送されたものが多く，30 代・40 代に認知率の高い番組は,「東京ラブストーリー」,「ねるとん紅鯨団」といった 1990 年代の番組, 50 代･60 代の高年層に認知率の高い番組は,「刑事コロンボ」,「シャボン玉ホリデー」などの 1960 ～ 1970 年代の番組であった。昔の番組においては，若年層よりも高年層の認知率が高いのは当然であるが，どの世代も，自身が 10 代～ 20 代のころの番組の認知率が高いことは，その時期にテレビへの接触が特に増加するか，想起記憶におけるバンプ現象が生起していると考えられる。

また, 全体的に女性の認知率が高いが,「刑事コロンボ」,「新世紀エヴァンゲリオン」,「機動戦士ガンダム」だけは男性の方が高かった。

⑴番組の認知数の世代比較

1983 年より前に開始したものを古い番組，1983 年以降に開始したものを新しい番組として認知数を算出し，世代を独立変数，番組の認知数を従属変数とする一元配置分散分析をそれぞれ行った（F=81.964, df=5,1594, p<.001；F=70.195, df=5,1594, p<.001）。古い番組においては, 40 代と 50 代の間, 30 代と 60 代の間にはそれぞれ有意差が見られなかったが, それ以外のすべての世代間において 0.1%水準で有意差が見られた。すなわち，50 代と 40 代がもっとも多くの番組を認知しており，次いで 30 代と 60 代，20 代，10 代の順に少なくなることを示している（10 代 M=7.04, SD=3.94；20 代 M=9.75, SD=4.44；30 代 M=12.55, SD=5.03；40 代 M=15.04, SD=6.07；50 代 M=15.24, SD=6.51；60 代 M=11.93, SD=7.30）。

一方，新しい番組においては，20 代・30 代・40 代の間，10 代と 60 代の間には有意差が見られなかったが，それ以外のすべての世代間において 0.1%水準で有意差が見られた。すなわち，20 代～ 40 代がもっとも多くの番組を認知しており，次いで 50 代，10 代と 60 代の順に少なくなることを示している（10 代 M=5.94, SD=3.78；20 代 M=10.35, SD=5.16；30 代 M=11.62, SD=5.80；40 代 M=11.19, SD=6.47；50 代 M=8.19, SD=5.85；60 代 M=5.20, SD=4.49）。

全体的には古い番組は年配層，新しい番組は若年層の認知数が多い傾向があるが，古い番組も新しい番組も，40 代の認知数がもっとも多いことが注目される。1970 ～ 1980 年代に青年期を過ごした 40 代は，他の世代に比べてテレビに親和性が高いと推察される。

⑵番組認知数の規定因

番組の新旧別に，番組の認知数を目的変数，メディア接触（テレビ，新聞，雑誌，インターネット），フェイス項目（性別，職業，学歴），テレビ愛着度尺度，テレビ利用（漫然視聴，選択視聴），ながら視聴（伝統的ながら視聴，ネットながら視聴），子ども時代のテレビとの関わり（テレビ熱中度，視聴制限，家族視聴，社会的視聴）を説明変数とする重回帰分析（ステップワイズ法）を行った（**表 2-1**，**表 2-2**）。

新旧番組の共通点として，多くの世代で，子ども時代のテレビ熱中度が番組認知数を規定していることが挙げられる。相違点としては，古い番組の認知数にはほとんど性差がなく，一部にインターネットが関連しているが，新しい番組は女性が多く認知しており，インターネットは関連していないことである。また，新しい番組は，パーソナル・ネットワークの中でテレビを話題にすることや，テレビ視聴が習慣化していることも規定因となっている。

●表１　番組の認知

	全体	年齢層別							男女別		
		10代	20代	30代	40代	50代	60代		男	女	
サザエさん	82.0	83.3	86.7	89.3	88.2	79.2	64.8	***	79.1	84.9	**
笑っていいとも！	75.0	74.2	87.9	84.2	84.2	67.8	51.1	***	71.5	78.5	**
笑点	73.3	62.9	79.2	75.7	77.9	76.9	66.7	***	70.4	76.1	*
ドラえもん	72.8	80.3	83.7	85.7	80.9	63.6	42.0	***	69.6	76.0	**
８時だヨ！全員集合	67.1	28.0	50.4	79.0	87.5	85.6	70.8	***	67.4	66.8	
ちびまる子ちゃん	66.9	76.5	78.0	78.7	76.5	58.0	33.3	***	64.5	69.4	*
水戸黄門	65.8	39.8	65.2	69.5	79.8	75.0	65.2	***	64.5	67.1	
おかあさんといっしょ	65.3	63.6	71.2	74.6	76.5	68.2	36.7	***	54.9	75.6	***
徹子の部屋	62.0	42.0	68.2	68.8	70.6	63.6	58.3	***	55.4	68.6	***
古畑任三郎	60.5	46.2	81.1	72.8	66.2	58.0	38.3	***	56.5	64.5	**
３年Ｂ組金八先生	60.3	54.2	62.9	70.6	76.1	54.5	42.4	***	56.8	63.8	**
クレヨンしんちゃん	59.8	76.1	78.4	64.3	67.3	49.2	23.1	***	58.9	60.8	
めちゃめちゃイケてるっ！	59.6	73.1	84.1	77.6	62.9	41.7	17.4	***	56.9	62.2	*
踊る大捜査線	58.4	49.2	75.0	71.7	63.2	53.8	37.1	***	57.8	59.1	
ザ・ベストテン	56.3	17.8	34.5	76.1	84.2	73.1	50.4	***	51.8	60.8	***
名犬ラッシー	53.4	26.9	31.1	50.7	65.4	83.0	62.9	***	51.2	55.5	†
ひらけポンキッキ	52.2	40.5	65.5	70.2	62.9	48.1	25.0	***	46.6	57.8	***
奥様は魔女	50.4	19.3	22.7	44.5	69.9	82.6	63.3	***	45.9	55.0	***
刑事コロンボ	46.4	6.8	32.2	41.2	61.0	73.5	63.6	***	49.9	43.0	**
オレたちひょうきん族	46.0	3.8	20.8	76.1	80.9	61.4	31.1	***	44.9	47.1	
HERO	44.8	42.8	59.1	56.2	49.3	40.5	20.5	***	40.0	49.6	***
渡る世間は鬼ばかり	43.4	38.6	50.4	47.1	45.2	39.4	39.8	*	36.4	50.5	***
北の国から	42.1	16.3	39.4	49.3	54.8	52.3	40.2	***	38.5	45.8	**
東京ラブストーリー	40.9	11.7	46.6	66.5	57.7	39.0	22.3	***	32.8	49.0	***
ねるとん紅鯨団	39.1	1.5	36.7	72.1	68.4	34.5	19.3	***	37.8	40.4	
ひとつ屋根の下	38.4	13.6	57.2	61.8	48.5	33.7	14.8	***	30.9	46.0	***
大草原の小さな家	37.0	5.7	20.5	46.3	54.8	49.6	44.3	***	29.2	44.8	***
おしん	36.3	9.1	13.6	47.1	50.7	47.7	48.9	***	31.8	40.9	***
ガリレオ	36.3	45.5	50.0	40.8	42.3	26.1	12.5	***	30.5	42.0	***
ロングバケーション	35.1	9.8	54.9	57.0	47.8	30.3	9.8	***	26.1	44.1	***
機動戦士ガンダム	34.9	33.0	37.1	57.0	46.0	22.7	12.5	***	39.9	29.9	***
シャボン玉ホリデー	31.8	0.0	0.4	8.8	41.9	76.5	63.3	***	32.4	31.1	
篤姫	30.9	18.6	23.1	28.3	30.5	39.4	45.5	***	26.0	35.8	***
ふぞろいの林檎たち	30.4	2.7	14.8	32.7	63.2	43.9	23.9	***	25.5	35.2	***
金曜日の妻たちへ	29.9	12.9	12.5	31.2	53.3	41.7	27.3	***	22.8	37.1	***
ジェスチャー	25.9	1.1	0.4	1.5	20.6	68.6	64.0	***	25.4	26.4	
夢であいましょう	25.6	1.9	7.2	13.6	23.5	47.3	60.6	***	26.2	25.0	
ビューティフルライフ	25.3	11.7	41.7	36.4	33.1	20.5	7.6	***	15.4	35.1	***
冬のソナタ	24.4	17.0	22.0	29.0	25.4	28.4	24.2	*	14.9	33.9	***
ありがとう	22.7	0.4	1.9	8.5	53.3	47.3	24.2	***	17.4	28.0	***
新世紀エヴァンゲリオン	22.1	27.3	45.5	27.6	20.6	9.5	1.9	***	25.8	18.4	***
傷だらけの天使	20.8	1.5	4.9	11.8	54.4	44.7	6.8	***	20.8	20.9	
浅草橋ヤング洋品店	18.7	1.9	29.5	33.5	30.9	11.7	3.8	***	17.6	19.8	
ずっとあなたが好きだった	18.4	0.8	15.9	34.2	31.2	19.7	7.6	***	9.5	27.2	***
ベン・ケーシー	17.9	0.4	1.1	1.8	7.4	43.9	53.8	***	19.8	16.1	†
ケイゾク	17.9	4.5	34.1	28.7	23.9	12.5	3.4	***	15.0	20.9	**
大地の子	16.8	1.1	13.6	13.2	15.1	25.8	32.2	***	12.5	21.1	***
もう誰も愛さない	16.3	1.5	12.5	38.6	30.1	10.6	3.0	***	9.9	22.6	***
若い季節	7.4	0.0	0.0	0.0	1.1	14.8	28.8	***	6.9	7.9	
抱きしめたい	7.2	0.4	4.9	14.7	16.2	3.8	2.7	***	3.6	10.8	***
平　均	41.4	26.0	40.2	48.3	52.5	46.9	34.3		37.9	45.0	

●表 2-1　古い番組の認知数の規定因

	10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代	
性別（1 ＝男性　2 ＝女性）							.235	***				
学歴（1 ＝中高卒　2 ＝短大卒以上）												
仕事（1 ＝フルタイム　2 ＝無職，バイト）									.117	*		
テレビ視聴頻度									.257	***		
テレビ視聴時間	.296	***										
新聞閲読頻度												
雑誌閲読頻度							.131	*				
ラジオ聴取頻度												
インターネット利用頻度					.133	*			.146	*		
テレビ熱中度	− .251	**										
テレビ話題度	.373	***							.203	***		
伝統的ながら視聴			.161	**								
ネットながら視聴												
漫然視聴												
選択視聴					.171	**						
テレビ重要度												
子ども時代のテレビ熱中度	.263	***	.142	*	.274	***			.224	***		
子ども時代の視聴制限					.118	*						
子ども時代の家族視聴							.142	*			.288	***
子ども時代の社会的視聴	− .162	**			− .148	*						
R2	.199	***	.035	**	.147	***	.083	***	.195	***	.080	***

●表 2-2　新しい番組の認知数の規定因

	10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代	
性別（1 ＝男性　2 ＝女性）			.123	*	.181	**	.313	***	.292	***		
学歴（1 ＝中高卒　2 ＝短大卒以上）							.132	*			.164	**
仕事（1 ＝フルタイム　2 ＝無職，バイト）												
テレビ視聴頻度							.156	**				
テレビ視聴時間	.168	**										
新聞閲読頻度							.112	*				
雑誌閲読頻度												
ラジオ聴取頻度												
インターネット利用頻度												
テレビ熱中度												
テレビ話題度	.371	***			.167	**	.189	**	.122	*		
伝統的ながら視聴												
ネットながら視聴												
漫然視聴			.126	*					.276	***	.167	**
選択視聴			.153	*	.165	**			.171	**	.251	***
テレビ重要度												
子ども時代のテレビ熱中度	.224	***			.255	***			.137	*		
子ども時代の視聴制限												
子ども時代の家族視聴											.135	*
子ども時代の社会的視聴	− .226	***	− .134	*								
R2	.216	***	.075	***	.171	***	.219	***	.271	***	.138	***

Figure & Table

2）もう一度見たい番組

見たことのある番組の中で，さらにもう一度見たい番組を3つまで選択させ，テレビ愛着度尺度，世代，性別の変数を投入して数量化Ⅲ類を行った（**図1**）。なお，テレビ愛着度は，8項目から構成されている量的変数であるが，平均値を基準に高群と低群に分割した変数を用いた。プロットの距離などから判断して，10代・20代，30代・40代，50代・60代の3グループに大別される。

⑴ 10代・20代

10代は「クレヨンしんちゃん」，「ちびまる子ちゃん」，「ドラえもん」，「サザエさん」といった子ども向けアニメ番組や，「笑っていいとも」，「めちゃめちゃイケてるっ！」などのバラエティ番組を挙げる傾向が見られた。アニメ番組とバラエティ番組のみで，ドラマは挙げられていないことが特徴的である。

20代になると，挙げられるアニメ番組は「機動戦士ガンダム」や「新世紀エヴァンゲリオン」といった大人に支持層の多い番組へと移行する。また，「古畑任三郎」，「HERO」，「ガリレオ」，「踊る大捜査線」など，最近10年間の高視聴率ドラマ，特にフジテレビ系列の推理･刑事ドラマが多い。一方，「おかあさんといっしょ」，「ひらけポンキッキ」といった幼児向け番組も挙げられている。

なお，アニメ番組が挙げられているのは，10代・20代のみである。

⑵ 30代・40代

30代は，純愛や家族愛を描いた「ひとつ屋根の下」や「ビューティフルライフ」，バラエティ番組では，後に人気アイドルとなったモーニング娘。を生んだオーディション番組の「ASAYAN」などが挙げられている。

40代は，不倫や夫のマザコンぶりが一大ブームを巻き起こした「金曜日の妻たちへ」，「ずっとあなたが好きだった」，青年期の恋愛や葛藤を描いた「東京ラブストーリー」，「ふぞろいの林檎たち」，バブル期を代表するトレンディドラマの「抱きしめたい」，バラエティ番組では「オレたちひょうきん族」，音楽ランキング番組の王道だった「ザ・ベストテン」などである。

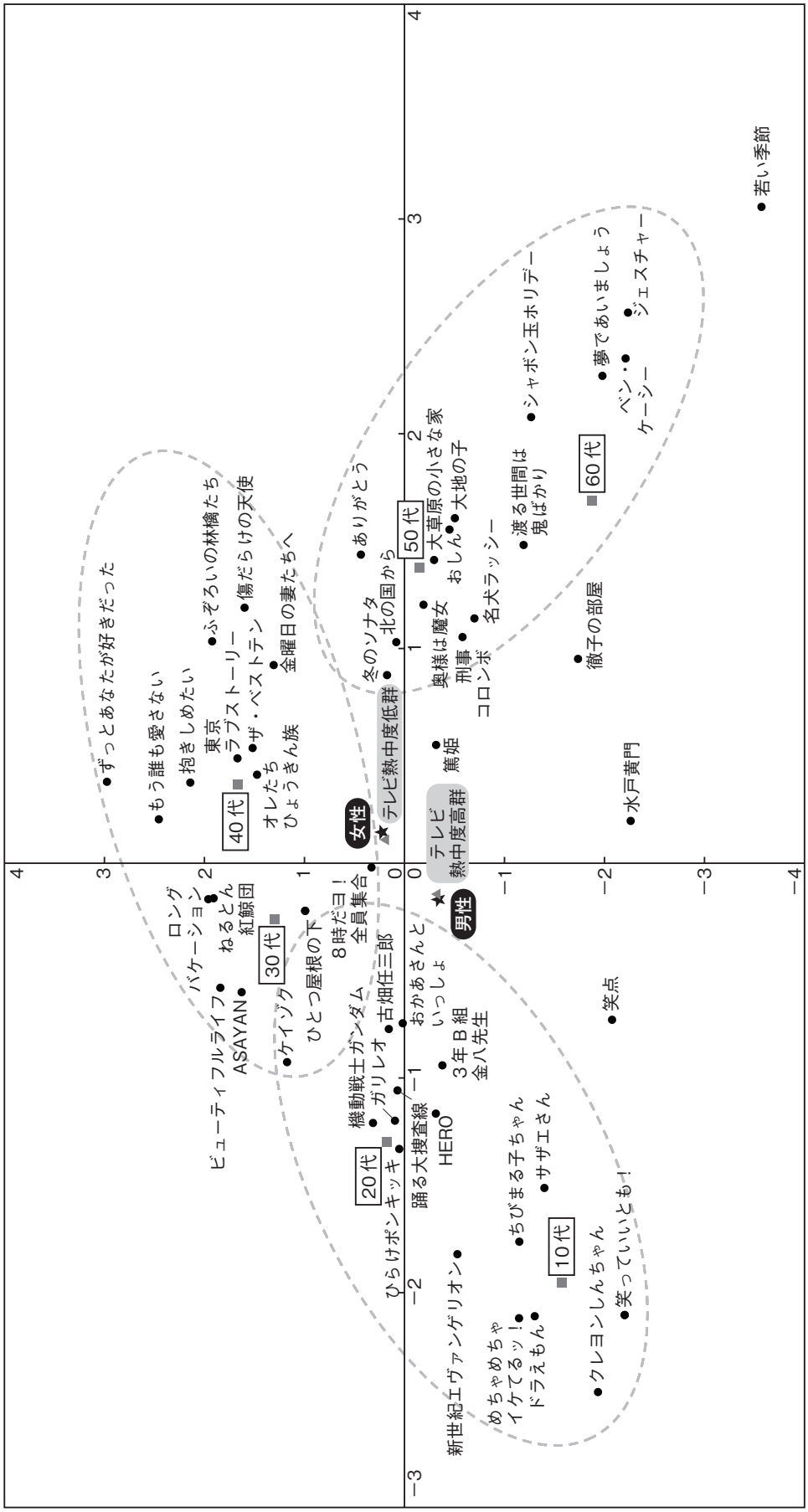
30代～40代においては，「ビューティフルライフ」や「ふぞろいの林檎たち」といった，それぞれに世代に特徴的な番組もあるが，ポスト・トレンディドラマとして，スリリングな描写とストーリーの急展開が話題となった「もう誰も愛さない」，30代の女性と年下男性との恋愛を描いた「ロング・バケーション」，集団見合いをバラエティ化してヒットした「ねるとん紅鯨団」など，中間に布置する番組も多い。全体としては，他の世代に比べると距離が近く，番組の記憶を共有する傾向があると考えられる。

⑶ 50代・60代

50代で「もう一度見たい番組」として挙げられたのは，大半がドラマであった。特徴的なのは，「名犬ラッシー」，「刑事コロンボ」，「奥様は魔女」，「大草原の小さな家」といった，1960年代のアメリカドラマが多く挙げられていることである。これは，1960年から1964年にかけて，アメリカのテレビ映画を中心とした輸入番組が全盛であったことと符号する。1953年に日本のテレビ放送が開始され，民放開局が相次いだものの，技術や設備，タレントの不足から，国産ドラマの水準は低く，急増した放送時間を埋めるために，アメリカドラマの輸入に頼っていたのである（佐田，1983）。

一方，1960年代後半から，供給過多状態となったアメリカドラマに対する離反が起こり（佐田，1983），日本のテレビ技術の向上に伴って，70年代前半にかけてホームドラマが黄金期を迎える（岩男，2001）。このことと呼応して，この時期の代表的なホームドラマ「ありがとう」が挙げられている。また，「渡る世間は鬼ばかり」は最近放送されたドラマであるが，往年のホームドラマを彷彿とさせる内容であることから，ホームドラマ黄金期に青年期を過ごした50代～60代にとって親和性が高いことを示唆している。

図１　もう一度見たい番組の数量化Ⅲ類プロット



また，2000年代に入ってから放送された番組では，「冬のソナタ」や，「篤姫」が挙げられており，いずれも年配の女性層を中心として高視聴率を獲得したドラマである。

60代になると，「夢であいましょう」，「ジェスチャー」といった，NHKのバラエティ番組が特徴的である。

3）小　括

総じて，どの世代も，自身が10代～20代のころに放送されていた番組の認知数が高く，また情緒的な関与も強く，テレビ番組の記憶においてもバンプが認められた。このことは，個人の自伝的記憶のみならず，マス・メディアが提供したコンテンツの記憶においても，社会的に共有されたバンプが生起することを示している。

また，10代・20代はバンプの真っ只中にいる世代であるが，現在の体験がバンプとなるのは，さらに年を重ねて，自身が30代以上になったときの相対的な現象である。しかしながら，10代では子ども向けアニメ番組，20代では幼児向け番組が挙げられたのは，まだ人生経験が浅い若年層にとって，幼少期がバンプとなっている可能性も考えられる。

その一方で，50代においては，最近5～10年間に放送された「冬のソナタ」，「渡る世間は鬼ばかり」が挙げられるなど，新近性効果も認められている。これらの番組は，最近放送されたものではあるが，内容は，往年の純愛ドラマやホームドラマのフレームワークに準じている（林，2005など）ことから，いわば，バンプの再体験と解釈することもできる。すなわち，新近性効果は，バンプとの類似性が高い場合において生起する可能性を示唆している。

また，「水戸黄門」や「笑点」といった長寿番組は，ほぼ中央に位置しており，顕著な世代差が見られなかった。これらの番組は，長期間にわたって放送されており，あらゆる世代の認知率が高かかったことが背景にある。しかしながら，「笑っていいとも」，「サザエさん」，「ドラえもん」，「おかあさんといっしょ」，「ひらけポンキッキ」のように，同じ長寿番組であっても，10代・20代の若年層に特徴的な番組も見られたことは，前述の若年層におけるバンプの可能性とともに，1980世代以降に生まれた世代がこれらの番組ジャンル（バラエティやアニメ）に特に親和性が高いとも考えられる。

▶ 人物の記憶

1）スポーツ選手

スポーツ選手認知率の世代別・性別の単純集計結果を**表3**に示す。全体の平均認知率は64.6%であるが，30～60代でおおむね70%以上の認知率となっており，相対的に若年層における認知率が低いといえる。

上位には，谷亮子，北島康介，高橋尚子，荒川静香など，近年のオリンピックの日本人メダリストが多く並んでいるのが特徴的である。これらのスポーツ選手は，オリンピック報道を通じてメディア露出が多く，あらゆる世代が接触の機会が多かったと考えられる。また，元プロ野球選手の長嶋茂雄，清原和博，野茂英雄，プロゴルファーの宮里藍，タイガー・ウッズなど，現在も解説者やタレントとして，または現役として，第一線で活躍しているスポーツ選手が多く挙げられたのも，同様に活動を通じてメディア露出が多いことが一因と考えられる。全体的に若年層の認知は，高年層の認知よりも低い傾向にあるが，これら上位のスポーツ選手は若年層と高年層の認知率の差がそれほど大きくない。また，男女差もほとんどなく，老若男女に認知されているといえる。

一方，同じオリンピックのメダリストでも，伊藤みどり，岩崎恭子，山下泰裕，ナディア・コマネチ，フローレンス・ジョイナー，ジャネット・リンなど，メダル獲得からかなりの時間が経過している上に現在のメディア露出が少ない場合や，最近に活躍したスポーツ選手でも，バリー・ボンズ，ウサイン・ボルトといった外国人の場合には，若年層や女

●表３　スポーツ選手の認知

	全体	年齢層別							男女別		
		10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代		男	女	
長嶋茂雄	92.1	73.1	91.7	94.9	98.2	97.7	96.6	***	92.9	91.2	
谷亮子	92.0	78.8	93.2	96.0	97.1	93.9	92.8	***	91.1	92.9	
北島康介	90.9	78.0	92.8	94.9	96.3	93.6	89.8	***	91.5	90.4	
高橋尚子	90.8	73.5	89.8	95.2	97.4	93.9	94.7	***	89.9	91.8	
荒川静香	89.6	72.0	90.2	95.2	94.9	93.6	91.7	***	88.4	90.9	
宮里藍	89.3	72.7	89.4	94.1	95.2	93.6	90.2	***	88.9	89.6	
中田英寿	88.4	70.5	92.0	93.8	96.3	91.7	86.0	***	89.4	87.5	
タイガー・ウッズ	87.6	65.2	89.8	92.3	96.7	92.8	88.3	***	89.0	86.1	†
清原和博	85.3	68.9	89.0	91.9	91.2	86.7	83.7	***	86.9	83.8	†
野茂英雄	85.2	48.9	87.9	93.8	96.7	93.2	90.2	***	88.5	81.9	***
朝青龍明徳	84.4	61.7	84.5	88.6	89.0	89.9	92.4	***	86.4	82.4	*
武豊	84.3	49.2	85.6	94.5	97.4	90.5	87.9	***	85.8	82.9	
貴乃花光司	82.3	48.1	82.2	91.9	92.6	90.2	87.9	***	82.9	81.6	
デビッド・ベッカム	81.6	63.6	83.3	87.1	89.0	88.3	78.0	***	83.9	79.4	*
三浦和良	80.9	38.6	84.8	92.3	93.8	90.9	84.1	***	82.8	79.0	†
具志堅用高	80.5	43.6	78.4	88.6	96.0	91.7	84.1	***	83.8	77.2	**
伊藤みどり	78.2	27.7	74.2	88.6	96.0	92.8	89.0	***	76.8	79.6	
カール・ルイス	76.5	34.5	70.8	84.9	90.8	91.7	85.6	***	80.2	72.8	***
野口みずき	74.9	53.8	72.3	79.0	80.5	82.2	81.1	***	75.9	73.9	
岩崎恭子	72.1	16.7	65.2	86.4	90.4	89.0	83.7	***	72.1	72.0	
力道山	67.4	26.5	50.8	62.1	76.1	92.0	97.0	***	75.2	59.6	***
山下泰裕	65.0	7.6	40.2	77.9	90.4	89.0	83.7	***	68.6	61.4	**
金田正一	61.9	9.5	28.8	60.7	89.3	91.3	91.3	***	69.5	54.4	***
ナディア・コマネチ	61.3	16.7	50.4	53.3	82.7	84.5	79.5	***	64.1	58.4	*
釜本邦茂	58.7	6.4	35.2	72.4	77.9	80.3	78.8	***	66.2	51.1	***
アンディ・フグ	57.0	27.7	65.5	72.8	71.3	58.7	45.1	***	65.1	48.9	***
フローレンス・ジョイナー	52.2	3.0	36.0	69.5	74.6	71.6	57.2	***	56.2	48.1	**
ディエゴ・マラドーナ	49.8	15.5	45.1	57.4	62.9	64.8	52.3	***	62.1	37.4	***
ランディ・ジョンソン	47.6	23.1	43.9	493.6	55.9	58.7	53.8	***	61.8	33.4	***
アベベ・ビキラ	44.9	8.0	24.2	34.6	52.9	76.5	73.1	***	50.9	38.9	***
バリー・ボンズ	44.3	26.9	47.7	47.4	51.1	49.2	43.2	***	60.4	28.2	***
セルゲイ・ブブカ	44.3	5.7	37.1	47.8	56.6	63.6	54.2	***	54.4	34.1	***
大鵬幸喜	42.8	5.3	18.6	22.4	40.1	81.8	89.0	***	49.2	36.2	***
ジャネット・リン	41.7	3.0	7.6	18.0	60.3	88.3	73.1	***	43.0	40.4	
樋口久子	40.5	1.1	3.8	19.1	61.8	79.9	77.3	***	44.4	36.6	**
ウサイン・ボルト	32.3	25.4	39.4	31.6	38.6	64.1	24.6	***	41.2	23.4	***
ベラ・チャフラフスカ	25.6	0.4	1.9	2.6	12.5	69.3	68.2	***	27.5	23.8	†
白井義男	22.3	2.7	8.0	8.8	17.6	37.9	59.5	***	31.8	12.9	***
クリス・エバート	19.1	1.9	2.3	10.7	33.5	37.9	28.0	***	22.2	15.9	**
小野喬	17.0	1.1	1.9	3.7	8.1	31.1	56.8	***	19.1	14.9	*
平　均	64.6	33.9	56.9	77.3	74.7	80.0	76.1		68.5	60.6	

性における認知率が大きく低下する。

(1)スポーツ選手認知数の世代比較

スポーツ選手を日本人選手と外国人選手に分け，世代を独立変数，スポーツ選手の認知数を従属変数とする一元配置分散分析をそれぞれ行った（F=190.895, df=5,1594, p<.001；F=109.797, df=5,1594, p<.001）。日本人選手の認知数においては，40 代～ 50 代に有意差は見られなかったが，30 代と 40 代の間に 1%水準で，それ以外の世代間には 0.1%水準

でそれぞれ有意差が見られた。すなわち，40～60代がもっとも認知数が多く，30代，20代，10代の順に，世代が下がるにつれて認知数も少なくなることを示している（10代 M=10.36, SD=5.98；20代 M=16.30, SD=5.18；30代 M=18.87, SD=4.45；40代 M=20.60, SD=3.86；50代 M=21.38, SD=4.73；60代 M=21.39, SD=5.75）。

一方，外国人選手の認知数においては，40代と60代の間には有意差が見られなかったが，20代と30代の間，40代と50代の間には5%水準で，50代と60代の間には1%水準で，それ以外の世代間には0.1%水準でそれぞれ有意差が見られた。すなわち，50代の認知数がもっとも多く，次いで40代と60代，30代，20代，10代の順に少なくなることを示している（10代 M=3.20, SD=3.01；20代 M=6.45, SD=3.89；30代 M=7.60, SD=3.90；40代 M=9.29, SD=4.03；50代 M=10.36, SD=4.16；60代 M=9.04, SD=4.70）。

⑵スポーツ選手認知数の規定因

スポーツ選手の認知数を目的変数，メディア接触（テレビ，新聞，雑誌，インターネット），フェイス項目（性別，職業，学歴），テレビ愛着度尺度，テレビ利用（漫然視聴，選択視聴），ながら視聴（伝統的ながら視聴，ネットながら視聴），子ども時代のテレビとの関わり（テレビ熱中度，視聴制限，家族視聴，社会的視聴）を説明変数とする重回帰分析（ステップワイズ法）を，日本人選手，外国人選手それぞれ行った（**表4-1**，**表4-2**）。

テレビ視聴との関連性に注目してみると，10代～30代の若年層では，日本人選手，外国人選手ともに，子ども時代から現在に至るまでのテレビ視聴量が認知数を規定している傾向が見られた。一方，40代では，外国人選手の認知数にはテレビ視聴が影響していたが，日本人選手の認知数には，テレビではなく，新聞や雑誌などの印刷メディアの接触度が関連していた。50代になると，日本人選手，外国人選手ともに，子ども時代のテレビとの関わりが強いほど認知数が多かったが，60代では日本人選手の認知数に子ども時代のテレビとの関わりは関連が見られなかった。

2）有名人

有名人認知率の世代別・性別の単純集計結果を**表5**に示す。全体の平均認知率は70.0%で，世代とともに上昇する傾向が見られる。

1位は明石家さんまで，どの世代にも高い認知率を持っている。また，故人でありながら，美空ひばり，石原裕次郎が上位に入っており，現在もたびたび特集番組が組まれたり，かつてのヒット曲やヒット映画が放送されたりしているために若年層の認知率も高いと考えられる。

一方，1960年，演説中に壇上で刺殺された社会党委員長の浅沼稲次郎，1986年のフィリピンの人民革命によって失脚したイメルダ・マルコス元大統領夫人，1970年代に活躍した歌手の佐良直美や外国人タレントのフランソワーズ・モレシャン，昭和期に活躍した歌手の江利チエミなど，時代が遡ると，若年層の認知率が著しく低下する。これらの人物は，現在でのメディア露出（懐古番組等を含む）がほとんどなく，アクセス可能性が低いためと考えられる。

おおむね男性よりも女性の認知率が高いが，クリント・イーストウッド，ジョン・ウェイン，チャールズ・ブロンソンといったアメリカの俳優や，イラクのサダム・フセイン，ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹，コメディアンの三波伸介は男性の認知率が高い。

全体的に，過去の有名人に対する若年層の認知率が低いだけで，特定の世代だけに突出した認知率を持つ有名人はほとんど見られない。特に歌手や俳優などの芸能人の場合には，長期的に活躍することもあり，特定の世代だけに記憶が共有されるというよりは，いくつかの世代にまたがって共有されると推察される。

⑴有名人認知数の世代比較

有名人を日本人と外国人に分け，世代を独立変数，有名人の認知数を従属変数とする一元配置分散分析をそれぞれ行った（F=377.198, df=5,1594, p<.001；F=209.380, df=5,1594,

●表 4-1　日本人選手の認知数の規定因

	10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代	
性別（1 ＝男性　2 ＝女性）	− .177	**	− .147	*	− .212	***			− .148	*	− .132	*
学歴（1 ＝中高卒 2 ＝短大卒以上）											.134	*
仕事（1 ＝フルタイム　2 ＝無職，バイト）												
テレビ視聴頻度	.225	***	.151	*					.123	*		
テレビ視聴時間												
新聞閲読頻度					.114	*	.147	*	.115	*		
雑誌閲読頻度							.122	*				
ラジオ聴取頻度												
インターネット利用頻度												
テレビ熱中度												
テレビ話題度	.239	***										
伝統的ながら視聴					.158	**						
ネットながら視聴												
漫然視聴			.144	*								
選択視聴											.135	*
テレビ重要度												
子ども時代のテレビ熱中度	.122	*	.133	*	.187	*			.153	*		
子ども時代の視聴制限					.135	*						
子ども時代の家族視聴									.225	***		
子ども時代の社会的視聴	− .291	***	− .221	***	− .257	***						
R2	.147	***	.108	***	.158	***	.039	**	.120	***	.051	**

●表 4-2　外国人選手の認知数の規定因

	10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代	
性別（1 ＝男性　2 ＝女性）	− .356	***	− .222	***	− .397	***	− .244	***	− .320	***	− .199	**
学歴（1 ＝中高卒 2 ＝短大卒以上）	.146	*			.121	*					.140	*
仕事（1 ＝フルタイム　2 ＝無職，バイト）											− .126	*
テレビ視聴頻度												
テレビ視聴時間	.183	**					.128	*				
新聞閲読頻度												
雑誌閲読頻度												
ラジオ聴取頻度												
インターネット利用頻度												
テレビ熱中度												
テレビ話題度	.268	***					.131	*	.161	*		
伝統的ながら視聴					.210	***						
ネットながら視聴												
漫然視聴			.230	***								
選択視聴			.144	*								
テレビ重要度												
子ども時代のテレビ熱中度			.127	*	.150	**						
子ども時代の視聴制限			.168	**							− .166	*
子ども時代の家族視聴					.197	**			.223	***	.257	***
子ども時代の社会的視聴	− .211	**	− .232	***	− .113	*			− .122	*		
R2	.203	***	.155	***	.221	***	.063	***	.122	***	.146	***

●表５　有名人の認知

	全体	年齢層別							男女別		
		10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代		男	女	
明石家さんま	94.0	83.0	94.3	96.3	98.5	96.2	95.5	***	92.6	95.4	*
美空ひばり	92.1	70.8	90.9	96.0	97.8	98.9	98.1	***	90.1	94.1	**
堺正章	91.9	72.0	92.0	95.2	98.5	98.5	94.7	***	91.0	92.8	
黒柳徹子	91.5	73.5	91.7	95.2	97.4	96.2	94.7	***	89.6	93.4	**
石原裕次郎	90.0	59.1	89.4	95.6	98.2	98.5	98.9	***	88.2	91.8	*
大竹しのぶ	89.9	65.2	89.8	94.9	98.2	96.6	94.7	***	87.2	92.6	***
萩本欽一	89.9	61.4	90.2	94.9	98.2	97.7	96.6	***	88.5	91.2	+
西田敏行	89.8	65.5	88.6	94.1	97.1	97.3	95.5	***	88.5	91.0	
森光子	88.6	56.8	88.6	94.5	98.2	97.0	96.2	***	86.8	90.5	*
五木ひろし	87.3	54.9	84.1	94.5	97.8	96.6	95.5	***	85.2	89.4	*
吉永小百合	86.0	50.8	83.3	91.9	97.1	97.0	95.5	***	84.0	88.0	*
緒形拳	85.0	45.5	84.5	92.3	97.4	97.0	92.8	***	83.1	86.9	*
マイケル・ジャクソン	84.9	72.3	84.5	91.9	92.3	87.9	79.9	***	83.1	86.6	+
山口百恵	84.6	47.0	81.1	92.3	97.8	96.2	92.8	***	82.4	86.9	*
石坂浩二	84.6	38.6	83.0	93.8	98.5	97.7	95.1	***	84.6	84.5	
ペ・ヨンジュン	83.3	70.1	86.4	87.9	91.5	84.5	79.2	***	79.8	86.9	***
アーノルド・シュワルツネッガー	83.0	54.9	80.7	88.2	94.1	94.7	84.8	***	84.1	81.9	
松坂慶子	82.3	40.2	75.8	90.4	97.4	97.3	92.0	***	79.8	84.9	**
浅野ゆう子	82.1	35.6	79.2	93.4	98.2	95.8	89.8	***	79.9	84.4	*
ジョン・レノン	81.6	59.8	78.8	86.4	90.1	92.0	82.2	***	80.2	83.0	
デーブ・スペクター	81.5	59.1	86.7	87.5	93.0	87.5	74.6	***	79.8	83.2	+
オードリー・ヘップバーン	79.9	46.2	77.7	81.2	90.1	94.3	89.8	***	76.1	83.8	***
渥美清	79.3	22.3	72.0	90.1	96.7	98.1	95.8	***	79.4	79.2	
ジョン・Ｆ・ケネディ	79.1	47.3	73.1	80.5	88.6	95.1	89.4	***	81.0	77.1	+
ブラッド・ピット	78.9	61.7	86.0	86.0	89.3	84.1	65.5	***	74.6	83.1	***
田中角栄	78.0	41.3	74.2	83.1	92.6	89.0	87.1	***	79.1	76.9	
竹下景子	77.1	19.3	62.9	89.7	96.7	98.5	94.3	***	75.9	78.2	
逸見政孝	75.5	5.7	71.6	92.3	95.6	97.0	89.8	***	74.9	76.1	
サダム・フセイン	75.4	37.5	71.2	79.4	89.0	91.3	83.7	***	79.6	71.2	***
森繁久弥	73.5	10.6	56.1	83.8	97.1	97.0	95.5	***	73.1	73.9	
大原麗子	70.0	5.3	41.7	86.0	97.4	96.2	92.0	***	67.9	72.1	+
三島由紀夫	65.1	22.0	53.4	61.0	76.1	91.7	86.4	***	65.9	64.4	
アラン・ドロン	60.9	12.1	34.5	54.4	82.7	92.0	89.4	***	62.4	59.5	
クリント・イーストウッド	60.3	14.8	48.5	65.4	80.5	81.8	69.7	***	66.2	54.2	***
細川護熙	59.8	9.8	39.0	67.6	77.9	81.1	82.6	***	61.9	57.8	
三波伸介	55.2	3.0	6.1	44.5	92.6	95.1	89.0	***	57.1	53.2	
湯川秀樹	55.1	25.8	43.2	43.8	61.8	77.3	78.8	***	58.9	51.2	**
エリザベス・テーラー	54.0	9.5	26.5	41.2	70.6	89.4	86.7	***	53.2	54.8	
竹脇無我	51.7	2.3	8.0	34.9	82.4	94.7	87.5	***	50.8	52.6	
江利チエミ	51.5	2.7	8.0	27.9	79.4	96.2	94.7	***	49.4	53.6	+
佐良直美	48.3	1.1	2.3	21.3	83.1	95.1	86.4	***	46.8	49.8	
ソフィア・ローレン	46.9	2.7	8.3	27.2	71.0	87.1	84.8	***	46.9	46.9	
フランソワーズ・モレシャン	44.4	0.4	5.7	33.8	69.1	81.8	75.0	***	40.4	48.4	**
ビヨンセ・ノウルズ	44.0	36.0	61.7	46.7	54.8	43.6	20.8	***	38.9	49.1	***
ジョン・ウェイン	43.0	3.8	10.2	19.9	61.8	82.2	80.3	***	48.6	37.4	***
チャールズ・ブロンソン	42.8	3.4	8.3	22.4	66.2	83.7	72.3	***	48.2	37.2	***
イーデス・ハンソン	41.6	3.4	4.9	10.7	56.2	89.0	85.6	***	42.0	41.1	
イメルダ・マルコス	39.3	1.1	6.4	31.6	61.4	68.9	65.5	***	39.6	38.9	
シャルル・ド・ゴール	24.3	4.2	9.1	8.5	22.4	50.8	51.1	***	28.5	20.0	***
浅沼稲次郎	19.1	1.5	4.5	3.3	9.9	26.9	69.3	***	22.8	15.5	***
平均	70.0	33.9	57.6	69.3	84.4	89.0	85.2		69.6	70.3	

p<.001)。日本人有名人について，40 ～ 60 代では有意差が見られなかったが，それ以外のすべての世代間において，0.1%水準で有意差が見られた。すなわち，世代が上がるにつれて日本人有名人の認知数は多くなるが，40 代以上においては一定数にとどまることを示している（10 代 M=10.92, SD=7.14；20 代 M=19.29, SD=6.50；30 代 M=23.35, SD=5.61；40 代 M=27.06, SD=3.86；50 代 M=27.88, SD=4.16；60 代 M=27.47, SD=5.32)。

一方，外国人有名人の場合は，40 代と 60 代の間には有意差が見られなかったが，40 代と 50 代の間，50 代と 60 代の間に 1%水準，それ以外の世代間に 0.1%水準でそれぞれ有意差が見られた。すなわち，50 代の外国人の認知数がもっとも多く，次いで 40 代と 60 代，30 代，20 代，10 代の順に少なくなることを示している（10 代 M=6.00, SD=4.24；20 代 M=9.49, SD=4.16；30 代 M=11.31, SD=4.67；40 代 M=15.15, SD=4.71；50 代 M=16.62, SD=4.16；60 代 M=15.11, SD=5.44)。

⑵有名人認知数の規定因

有名人の認知数を目的変数，メディア接触（テレビ，新聞，雑誌，インターネット），フェイス項目（性別，職業，学歴），テレビ愛着度尺度，テレビ利用（漫然視聴，選択視聴），ながら視聴（伝統的ながら視聴，ネットながら視聴），子ども時代のテレビとの関わり（テレビ熱中度，視聴制限，家族視聴，社会的視聴）を説明変数とする重回帰分析（ステップワイズ法）を，日本人，外国人それぞれ行った（**表 6-1**，**表 6-2**)。

若年層において，日本人有名人の認知数に子ども時代の家族視聴は影響がなかったが，外国人有名人の認知数には影響が見られた。すなわち，子ども時代に家族と一緒にテレビを見ていた 20 代・30 代は，外国人を多く認知している傾向が見られた。

3）小　活

全体的な傾向として，スポーツ選手・有名人とも，世代が上がるにつれて認知数が多くなるが，日本人有名人の場合，40 ～ 60 代の認知数に差は見られず，一定数で推移するのに対して，外国人有名人の場合は，50 代において認知数が突出していることが示された。前項で 50 代が「もう一度見たい番組」として挙げたものに，1960 ～ 1970 年代のアメリカドラマが多かったことも踏まえると，50 代は外国人に対する憧憬が他の世代よりも強いのかもしれない。また，外国人有名人については，この世代のジュニア世代と考えられる 20・30 代が親の影響を受けている可能性がある。

▶ 社会的出来事の記憶

1）記憶している社会的出来事

「記憶している社会的出来事」の世代別・性別の単純集計結果を**表 7** に示す。全体の平均認知率は 65.8%で，世代とともに上昇する傾向があるが，特に 40 代から大幅に高くなる。「秋葉原通り魔事件（2008 年)」,「福知山線脱線事故（2005 年)」,「秋田児童殺害事件（2006 年)」といったごく最近の事件が上位に入るのは当然であるが，一方，1990 年代～ 2000 年の事件であっても，「阪神・淡路大震災（1995 年)」,「米国同時多発テロ（2001 年)」など，被害規模が大きくテレビ映像のインパクトの強かった事件,「地下鉄サリン事件（1995 年)」,「和歌山毒物カレー事件（1998 年)」など，社会的影響が現在も長く尾を引いている事件も認知率が高かった。おおむね男性の方が多く認知していたが,「皇太子ご成婚(1959 年；1993 年)」といった皇室ニュースは女性の方が多く認知していた。

一方，認知率の低い出来事は,「イエスの方舟（1980 年)」,「豊田商事会長刺殺事件（1985 年)」,「ロッキード事件（1976 年)」,「小野田少尉帰還（1974 年)」などであった。若年層がほとんど認知していない 70 年代～ 80 年代の出来事であるが，同時期の他の出来事に比べると，①被害や社会的影響が相対的に小さい，②その出来事を象徴するようなテレビ映

●表 6-1　日本人有名人

	10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代	
性別（1 ＝男性　2 ＝女性）												
学歴（1 ＝中高卒 2 ＝短大卒以上）											.193	**
仕事（1 ＝フルタイム　2 ＝無職，バイト）												
テレビ視聴頻度												
テレビ視聴時間	.230	***			.187	**						
新聞閲読頻度			.134	*								
雑誌閲読頻度												
ラジオ聴取頻度							.138	*				
インターネット利用頻度									.141	*	− .194	**
テレビ熱中度												
テレビ話題度	.331	***										
伝統的ながら視聴												
ネットながら視聴	− .145	*							− .128	*		
漫然視聴			.205	**								
選択視聴												
テレビ重要度												
子ども時代のテレビ熱中度	.185	**	.187	**	.276	***			.165	**		
子ども時代の視聴制限											− .123	*
子ども時代の家族視聴							.213	***	.238	***		
子ども時代の社会的視聴	− .264	***	− .245	***	− .232	***						
R2	.174	***	.109	***	.122	***	.056	***	.133	***	.080	***

●表 6-2　外国人有名人

	10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代	
性別（1 ＝男性　2 ＝女性）												
学歴（1 ＝中高卒 2 ＝短大卒以上）	.135	*									.230	***
仕事（1 ＝フルタイム　2 ＝無職，バイト）												
テレビ視聴頻度	.130	*							.136	*		
テレビ視聴時間							.218	**				
新聞閲読頻度			.134	*								
雑誌閲読頻度							.136	*				
ラジオ聴取頻度							.162	**				
インターネット利用頻度					.148	*						
テレビ熱中度							− .166	*				
テレビ話題度	.290	***			.224	***						
伝統的ながら視聴	.157	†										
ネットながら視聴	− .270	**			− .125	*						
漫然視聴			.129	*								
選択視聴												
テレビ重要度												
子ども時代のテレビ熱中度			.129	*	.180	**			.141	*		
子ども時代の視聴制限											− .174	*
子ども時代の家族視聴			.137	*	.116	*			.184	**	.237	**
子ども時代の社会的視聴	− .169	**	− .264	***								
R2	.134	***	.095	***	.111	***	.056	**	.078	***	.095	***

●表７　社会的出来事の認知

	全体	年齢層別							男女別		
		10代	20代	30代	40代	50代	60代		男	女	
秋葉原通り魔事件（2008）	90.9	86.0	91.7	90.8	94.1	92.4	90.2	*	89.8	92.0	
新潟県中越地震（2004）	86.8	74.2	85.2	86.4	92.3	91.3	90.9	***	87.8	85.8	
和歌山毒物カレー（林真須美）事件（1998）	86.3	56.8	87.5	91.5	95.2	92.4	93.6	***	85.5	87.0	
JR福知山線脱線事故（2005）	86.3	67.0	84.8	88.6	93.0	92.0	91.7	***	87.4	85.1	
阪神淡路大震災（1995）	85.8	50.0	87.9	90.1	97.1	94.3	95.1	***	85.4	86.2	
オウム真理教・地下鉄サリン事件（1995）	84.2	42.8	87.9	89.7	95.6	95.1	93.6	***	83.4	85.0	
スマトラ島沖地震・津波被害（2004）	82.5	73.9	81.4	80.5	87.9	87.5	83.7	***	82.5	82.5	
米国同時多発テロ事件（2001）	82.4	60.6	82.6	80.5	91.2	91.7	87.9	***	84.1	80.8	†
秋田連続児童殺人（畠山鈴香）事件（2006）	80.4	59.5	79.2	81.6	90.1	86.7	84.8	***	78.5	82.2	†
日韓共催サッカー・ワールドカップ（2002）	75.8	53.4	79.2	76.1	82.0	82.2	81.4	***	81.5	70.0	***
神戸児童連続殺傷（酒鬼薔薇聖斗）事件（1997）	75.6	21.2	79.5	86.0	93.0	89.0	84.1	***	74.6	76.6	
長崎（伊藤一長）市長銃撃事件（2007）	75.1	50.0	70.1	75.7	82.0	86.7	86.0	***	77.4	72.9	*
ベルリンの壁崩壊（1989）	75.1	27.3	64.0	82.7	93.0	92.8	89.8	***	76.2	73.9	
皇太子御成婚（雅子妃）（1993）	72.4	12.9	66.7	80.9	90.4	90.9	92.0	***	69.0	75.9	**
日航ジャンボ機（御巣鷹山）墜落事故（1985）	68.4	11.4	42.0	76.8	92.6	93.2	93.2	***	69.9	66.9	
雲仙・普賢岳の大規模火砕流災害（1991）	66.8	5.3	53.8	73.2	87.1	91.7	88.6	***	70.4	63.1	**
疑惑の銃弾・ロス疑惑（三浦和義）報道（1984）	65.1	12.9	42.8	69.9	89.3	88.3	86.7	***	66.0	64.2	
イラク武装勢力による日本人民間人人質事件（2004）	65.1	45.8	63.6	63.6	70.2	75.0	72.3	***	67.9	62.4	*
チェルノブイリ原発事故（1986）	64.1	12.5	42.0	72.1	85.7	88.6	83.0	***	67.8	60.5	**
昭和天皇崩御・大葬の礼（1989）	63.6	5.3	28.8	73.9	89.3	92.0	91.3	***	65.6	61.6	
イラクのクウェート侵攻・湾岸戦争勃発（1991）	63.6	9.8	45.8	71.0	83.5	85.2	85.2	***	69.6	57.5	***
アポロ11号月面着陸（1969）	62.1	26.1	49.6	46.0	71.7	91.7	87.9	***	63.1	61.1	
連合赤軍浅間山荘事件（1972）	60.8	11.0	43.2	45.6	76.8	94.7	93.2	***	62.2	59.2	
埼玉・連続幼女誘拐殺人（宮崎勤）事件（1989）	60.7	6.8	35.2	71.0	83.1	85.2	81.8	***	60.5	60.9	
大韓航空機事件（1983）	60.6	6.4	26.5	65.1	85.7	90.5	88.3	***	62.2	58.9	
ホテルニュージャパン火災（1982）	60.0	7.6	23.5	58.8	89.3	92.0	87.9	***	61.1	58.9	
東京オリンピック（1964）	59.5	21.2	43.6	41.9	60.7	94.7	95.5	***	60.0	59.0	
米スペースシャトル（チャレンジャー）爆発事故（1986）	58.7	7.2	25.4	62.5	85.3	89.4	81.4	***	65.1	52.2	***
グリコ社長誘拐事件（1984）	58.4	3.4	25.4	63.6	88.6	86.4	81.8	***	60.0	56.8	
中国・天安門事件（1989）	58.2	7.2	33.7	65.8	80.5	83.7	77.3	***	63.9	52.5	***
リクルート事件（1988）	57.9	4.5	25.4	64.3	83.8	83.7	84.5	***	61.4	54.4	**
ペルー日本大使公邸事件（1996）	57.8	4.5	46.2	59.2	76.8	80.7	78.8	***	64.4	51.2	***
伊豆大島・三原山大噴火（1986）	57.1	6.4	23.5	62.5	77.2	87.1	85.2	***	60.9	53.4	**
日航機よど号ハイジャック事件（1970）	56.5	9.5	38.6	41.2	66.2	92.0	91.7	***	58.2	54.8	
新潟少女監禁事件（2000）	56.4	18.2	46.6	58.8	73.9	73.9	66.3	***	54.2	58.5	†
皇太子（現天皇・皇后）御成婚（1959）	51.0	10.6	32.2	38.6	58.8	72.0	93.9	***	46.1	55.9	***
ビートルズ来日，武道館公演（1966）	49.8	12.1	42.0	41.2	60.3	73.5	69.3	***	48.9	50.6	
小野田元少尉ルバング島から帰還（1974）	49.8	3.8	15.9	27.9	73.2	91.7	86.0	***	51.9	47.6	†
ロッキード事件国会証人喚問（1976）	48.4	3.8	18.2	26.1	71.3	85.6	85.2	***	51.1	45.6	*
豊田商事（永野一夫）会長刺殺事件（1985）	46.4	0.8	5.7	37.9	79.8	78.0	75.4	***	50.6	42.1	**
イエスの方舟騒動（1980）	31.1	0.4	1.5	11.4	53.3	65.9	54.2	***	29.4	32.9	
平　均	65.8	24.6	50.0	65.1	82.2	87.1	85.1		67.2	64.4	

Figure & Table

像がなく，視覚的なインパクトが低い，③後世に及ぶ影響が小さく，遡って参照されることがほとんどない，といった特徴がある。

⑴社会的出来事認知数の世代比較

社会的出来事を 1959 ～ 1988 年までの古いものと，1989 年～ 2008 年の新しいものに分け，世代を独立変数，社会的出来事の認知数を従属変数とする一元配置分散分析をそれぞれ行った（F=418.997, df=5,1594, p<.001；F=150.998, df=5,1594, p<.001）。古い社会的出来事においては，50 代と 60 代の間に有意差は見られなかったが，40 代と 60 代の間には 1%水準で，それ以外の世代間には 0.1%水準でそれぞれ有意差が見られた。すなわち，世代が上がるにつれて認知数は多くなるが，50 代以上においては一定数にとどまることを示している（10 代 M=1.77, SD=3.54；20 代 M=5.96, SD=5.96；30 代 M=10.27, SD=6.39；40 代 M=15.39, SD=5.19；50 代 M=17.31, SD=4.28；60 代 M=16.95, SD=4.57）。

新しい出来事においては，40 代・50 代・60 代の間に有意差は見られなかったが，30 代と 60 代の間には 1%水準で，それ以外の世代間には 0.1%水準でそれぞれ有意差が見られた。すなわち，世代が上がるにつれて認知数は多くなるが，40 代以上においては一定数にとどまることを示している（10 代 M=8.33, SD=5.11；20 代 M=14.53, SD=5.66；30 代 M=16.54, SD=5.78；40 代 M=18.32, SD=4.25；50 代 M=18.41, SD=4.83；60 代 M=17.95, SD=5.08）。

⑵社会的出来事認知数の規定因

社会的出来事の認知数を目的変数，メディア接触（テレビ，新聞，雑誌，インターネット），フェイス項目（性別，職業，学歴），テレビ愛着度尺度，テレビ利用（漫然視聴，選択視聴），ながら視聴（伝統的ながら視聴，ネットながら視聴），子ども時代のテレビとの関わり（テレビ熱中度，視聴制限，家族視聴，社会的視聴）を説明変数とする重回帰分析（ステップワイズ法）を，古い社会的出来事，新しい社会的出来事それぞれで行った（**表 8-1**，**表 8-2**）。

古い社会的出来事，新しい社会的出来事，ともに共通しているのは，10 ～ 30 代では子ども時代のテレビ熱中度，40 ～ 60 代では子ども時代の家族視聴が規定因となっていることである。このことは，40 代以上の世代では，テレビが家族団欒の場になっており，テレビによって提供された社会的リアリティを身近なネットワークで共有していたが，30 代以下の世代では自分一人の視聴へとシフトし，孤立する個々の受け手がメディアによってバーチャルに結ばれた劇場型社会（藤竹，2000）が登場したことを示唆している。

30 代～ 50 代は，古い社会的出来事も新しい社会的出来事も，テレビの視聴量が関連していたのに対して，10 代・20 代の若年層においては，新しい社会的出来事の認知数にテレビの影響はほとんど見られないが，古い社会的出来事の認知にはテレビ視聴量の影響が見られることが特徴である。すなわち，自身が知らない時代の出来事であっても，テレビが後世においても繰り返し映像を提示することが，世代を超えた集合的記憶の構築に寄与すると考えられる。

2）鮮明に記憶している社会的出来事

社会的出来事の中でも特に鮮明に記憶しているもの，性別，世代，テレビ愛着度の変数を投入して数量化Ⅲ類を行った（**図 2**）。なお，テレビ愛着度は，8 項目から構成されている量的変数であるが，平均値を基準に高群と低群に分割した変数を用いた。

10 代･20 代に共通して鮮明に記憶された出来事は，「秋葉原通り魔事件（2008 年）」，「秋田連続児童殺人事件（2006 年）」，「スマトラ沖地震･津波被害（2004 年）」であった。一方，それぞれの世代に特徴的であったのは，10 代では「新潟県中越地震（2004 年）」，「長崎市長銃撃事件（2007 年）」，「イラク日本人民間人人質事件（2004 年）」，20 代では「福知山線脱線事故（2005 年）」，「日韓共催W杯（2002 年）」，「和歌山毒物カレー事件（1998 年）」などである。いずれも最近 10 年間の事件であるが，10 代の方がやや新しい傾向が見られる。和歌山毒物カレー事件のみが 1990 世代に発生した事件であるが，事件の特異性とともに，

●表 8-1　古い社会的出来事

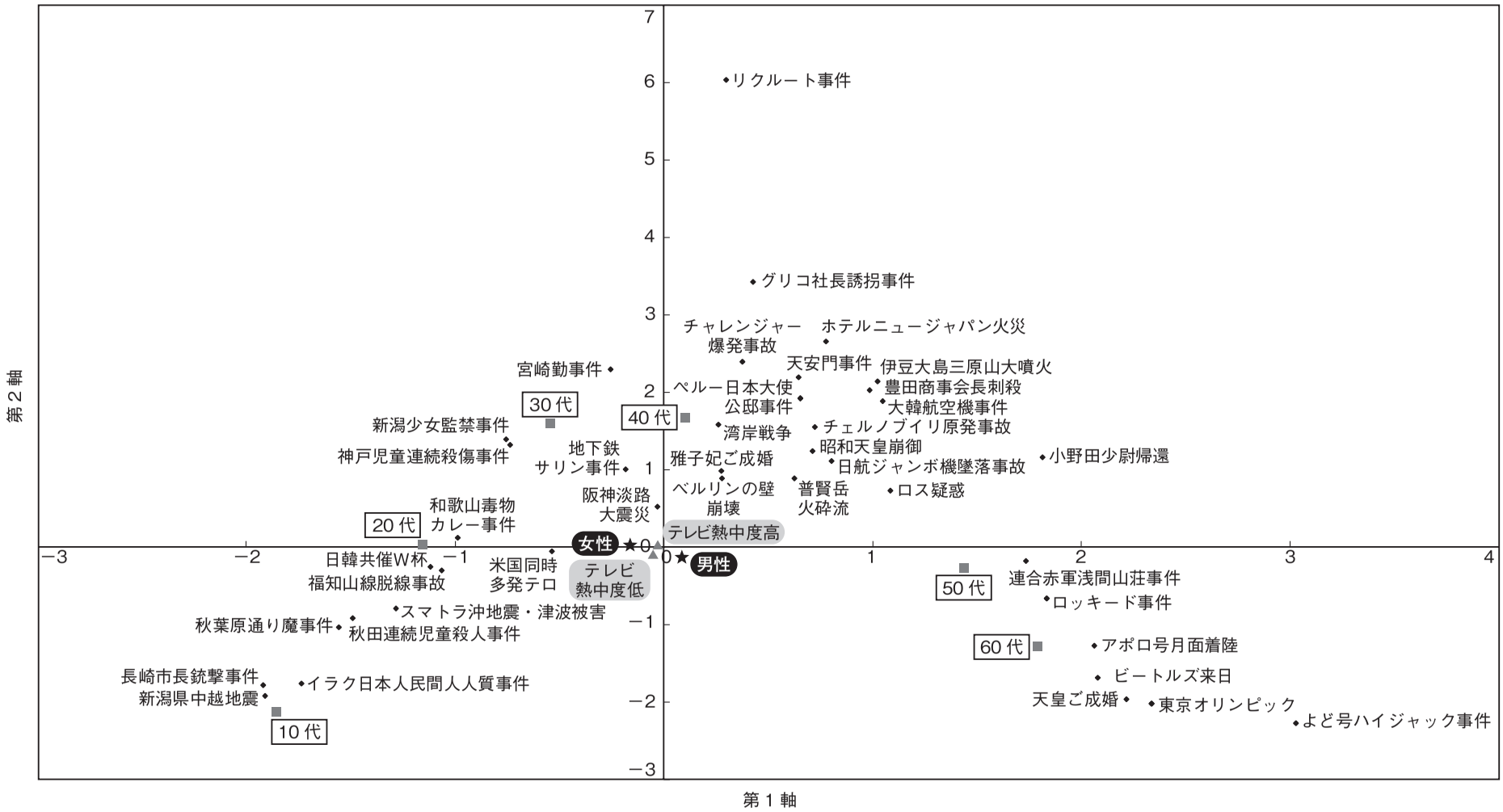
	10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代	
性別（1 ＝男性　2 ＝女性）	− .145	*	− .145	*								
学歴（1 ＝中高卒　2 ＝短大卒以上）											.137	*
仕事（1 ＝フルタイム　2 ＝無職，バイト）												
テレビ視聴頻度							.184	**	.250	***		
テレビ視聴時間	.241	***			.132	*						
新聞閲読頻度	.134	*	.159	**	.171	**						
雑誌閲読頻度												
ラジオ聴取頻度							.160	**				
インターネット利用頻度											.136	*
テレビ熱中度							− .136	*				
テレビ話題度												
伝統的ながら視聴												
ネットながら視聴												
漫然視聴												
選択視聴												
テレビ重要度												
子ども時代のテレビ熱中度	.139	*	.136	*	.152	*						
子ども時代の視聴制限											− .233	**
子ども時代の家族視聴							.129	*	.205	**	.211	**
子ども時代の社会的視聴			− .164	**	− .177	**						
R2	.096	***	.070	***	.077	***	.061	***	.109	***	.079	***

●表 8-2　新しい社会的出来事

	10 代		20 代		30 代		40 代		50 代		60 代	
性別（1 ＝男性　2 ＝女性）					− .124	*			− .144	*		
学歴（1 ＝中高卒 2 ＝短大卒以上）	.143	*							.131	*	.163	**
仕事（1 ＝フルタイム　2 ＝無職，バイト）							− .117	*				
テレビ視聴頻度					.181	**	.193	**	.197	**		
テレビ視聴時間							.153	*	.186	**		
新聞閲読頻度			.147	*	.145	*						
雑誌閲読頻度												
ラジオ聴取頻度							.116	*				
インターネット利用頻度			.186	**							.130	*
テレビ熱中度												
テレビ話題度	.263	***					.124	*				
伝統的ながら視聴												
ネットながら視聴							− .205	**	− .144	**		
漫然視聴												
選択視聴												
テレビ重要度												
子ども時代のテレビ熱中度	.270	***	.153	*	.135	*						
子ども時代の視聴制限	− .143	*									− .159	**
子ども時代の家族視聴							.191	**	.161	**		
子ども時代の社会的視聴	− .193	**	− .239	***	− .299	***						
R2	.145	***	.130	***	.154	***	.157	***	.144	***	.051	**

Figure & Table

図２　鮮明に記憶している社会的出来事の数量化Ⅲ類プロット



被告が一貫して黙秘するなど裁判が注目されたこと，2009年に死刑判決が確定したことなど，後々も社会的な影響が大きく，アクセス可能性が高かったことが20代の記憶に影響したと考えられる。

30代では，「新潟少女監禁事件（2000年）」，「神戸連続児童殺傷事件（1995年）」，「宮崎勤事件（1989年）」，40代では，「湾岸戦争（1991年）」，「チャレンジャー号爆発（1986年）」，「グリコ社長誘拐事件（1984年）」といった，世代に特徴的な事件も見られたが，全体として，「もう一度見たい番組」と同様に，30代・40代は他の世代に比べると距離が近く，社会的な記憶を共有する傾向が強いと見られる。

50代は「連合赤軍浅間山荘事件（1972年）」，「ロッキード事件（1976年）」，60代では「アポロ号月面着陸（1969年）」，「ビートルズ来日（1966年）」などが挙げられた。

「もう一度見たい番組」と同様に，どの世代においても，自身が10～20代のころに体験した出来事を鮮明に記憶する傾向があり，社会的記憶においてもバンプが認められた。一方で，阪神・淡路大震災や米国同時多発テロのように被害が大規模でテレビ映像のインパクトの大きかった出来事，和歌山カレー事件のように裁判などで長期的に注目された出来事は，どの世代でも鮮明に記憶しており，世代を超えた社会的な記憶の共有といえる。

3）小　活

社会的出来事の記憶においても，世代が上がるにつれて，認知数・認知率が上昇する傾向とともにバンプが認められた。一方，古いものであっても，世代を超えて共有された社会的出来事は，被害や影響などの社会的インパクトの大きいこと，象徴的な映像のあること，後世にも引き続き影響を与えたことなどが特徴として挙げられる。このとき，若年層に対しては，テレビが過去の社会的出来事を繰り返し伝えることによって疑似的な記憶を構築することも示された。

▶ 全体的考察

本研究で見出された集合的記憶の特徴は，新近性効果が見られること，自国や自分自身と関わりの強い出来事の方がより重要であると認識されること（Pennebaker, Paez, & Rimé, 1997），アクセス可能性の高いこと（Brandt & Benedict,1993）など，ほぼ先行研究に対応するものであったが，ここでは，集合的記憶におけるテレビの影響に焦点を絞って考えてみたい。

人物や社会的出来事においては，年齢の上昇と認知率・認知数が対応しており，高年層ほど多くの人物や出来事を記憶していた。また，40代や50代以上においては人物や社会的出来事の認知数が一定量でとどまり，世代が上がっても，それ以上は上昇しないことも示された。加齢とともにエピソード記憶の量は低下するという先行研究の知見（石原，2008）を支持する結果である。一方，テレビ番組のみ，中間の30代・40代の認知率・認知数がもっとも高かった。このことは，1960年当時は一日あたり1時間前後であったテレビ視聴時間が，1960年代半ばにテレビが各家庭に普及したことを経て，1970～1980年代には3～4倍となっており（NHK国民生活時間調査，2009），そのころに幼少期を過ごした30代・40代が，特にテレビに対する親和性が高いこと，それ以下の世代になると，インターネットや電子ゲームなどが新たに普及して，テレビ離れが進んだことを示唆している（佐藤，2008）。

最近の人物・社会的出来事の集合的記憶においては，過去の人物・社会的出来事と比べると相対的に顕著な世代差は見られず，おおよそ社会的インパクトの強さに規定されているといえる。事象そのものの社会的インパクト，報道量の多さ，あるいはその相乗効果など，多様な要因が輻輳しているため，テレビ単体の影響力を特定することは困難である。一方，過去の社会的出来事のうち，社会的インパクトが大きいものについては，テレビが繰り返

し報道することによって若年層に疑似的な記憶を構築し，世代を超えて社会的に共有されることが見出された。

過去の人物や社会的出来事における若年層の認知率や認知数が低いのは当然であるが，40代以上は差が見られないこと，特に古い社会的出来事においては30代と40代の差が顕著であることから，30代以下と40代以上で何らかの社会環境の変化があったと推察される。この理由は定かではないが，いくつかの仮説的な解釈は考えられる。第1に「連合赤軍浅間山荘事件（1972年）」の影響である。この事件は，テレビが劇場型社会を構築するメディアとして機能した先駆であり（佐藤，1994），それをリアルタイムで体験した世代（40代以上）は，インパクトの大小を問わず，テレビが伝えた当時の出来事の印象が強く，世代を超えた記憶を共有しているのかもしれない。第2に，ビデオの影響である。ビデオの登場によってテレビ視聴形態は大きく変わったが，家庭用のビデオが普及したのはテレビの普及から遅れること20年，1980年代半ばからである（佐藤，2008）。ビデオを前提としたメディア環境で育ってきた現在の30代以下は，「自分の見たいものだけを見る」という志向性が強く，おのずと，関心のない事柄を自然視聴する機会が少ない可能性がある。

また，集合的記憶とテレビ愛着度との明確な規定関係は見出されず，むしろ，一部においては，負の関係性が見出された。テレビ愛着度はテレビとの心理的距離の近さを表す尺度であるが，小城・坂田・川上（2009）の知見によれば，気分転換やリラクゼーションの意味合いが強く，認知的な活動とは連動していないことが一因と考えられる。

●引用文献

Brandt, J., & Benedict, R. H.（1993）. Assessment of retrograde amnesia: Findings with a new public events procedure. *Neuropsychology*, **7**, 217-227.

藤竹暁（2000）．劇場型社会－劇場型社会に生きる人間　藤竹暁（編）劇場型社会, 現代のエスプリ, **400**,（*pp*.27-37）至文堂

Halbwachs, M.（1950）. La mémorie collective, Paris: Presses Universitaires de France.（アルバックス , M.　小関藤一郎（訳）（1989）．集合的記憶　行路社）

林香里（2005）．冬ソナにハマった私たち　純愛，涙，マスコミ・・・・・・そして韓国　文藝春秋

石原治（2008）．エピソード記憶・意味記憶　太田信夫・多鹿秀継（編）　記憶の生涯発達心理学　北大路書房　*pp*.295-306.

岩男寿美子（2001）．テレビドラマのメッセージ　社会心理学的分析　勁草書房

小城英子・坂田浩之・川上正浩（2009）．テレビに対する態度尺度の作成　不思議現象に対する態度(17)　日本心理学会第73回大会発表論文集，237.

槙洋一・仲真紀子（2006）．高齢者の自伝的記憶におけるバンプと記憶内容　心理学研究，**77**, 333-341.

O'Connor, M. G., Sieggreen, M. A., Bachna, K., Kaplan, B., Cermak, L. S., & Ransil, B. J.（2000）. Long-term retention of transient news event. *Journal of the International Neuropsychological Society*, **6**, 44-51.

Pennebaker, J. W., Paez, D., & Rimé, B.（1997）. Collective memory of political event: *Social Psychological perspective*. Mahwah, NJ, USA: Laurence Erlbaum Associates, Inc.

佐田一彦（1983）．テレビ輸入番組　川竹和夫（編著）　テレビのなかの外国文化　NHK出版　*pp*.24-54.

佐藤浩一（2008）．自伝的記憶研究の方法と収束的妥当性　佐藤浩一・越智啓太・下島裕美（編）　自伝的記憶の心理学　北大路書房　*pp*.2-18.

佐藤卓巳（2005）．テレビ的教養－一億総博知化への系譜　NTT出版

佐藤二雄（1994）．テレビ・メディアと日本人　すずさわ書店

高山大輔・余語真夫（2005）．社会的出来事の集合的記憶に関する心理学研究　同志社心理，**52**, 38-43.

（小城英子　聖心女子大学文学部専任講師）
（萩原　滋　慶應義塾大学メディア・コミュニケーション教授）
（村山　陽　慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程）
（大坪寛子　慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員）
（渋谷明子　慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員）
（志岐裕子　慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員）